

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.4 成果	
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）	
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。	
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学生の学習を振り返ることのできるシステムをICTを活用して開発する。	→学習管理システムの構築	C
2. 学生の学習成果を測定できるシステムをICTを活用して開発する。	→成果測定システムの構築	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(現状説明) 現状では、教育成果を測定する仕組みが整っていない。留年率であるとか、就職決定率といった数値から推定することしかできない。今後、学習成果を測定する指標（システム）（たとえば本学の学士として備えているべき能力をもとにしたカリキュラムマップと学生の学習履歴を組み合わせて数値化する、など）を開発するとか、学生がそれらの能力について自己評価できるシステムを開発するといったことが必要である。これらは、高等教育推進センターが導入を推進しているLMS（学習支援システム）を利用して実現を図るものである。あわせて卒業生にアンケート調査を実施することなども必要である。 高等教育推進センターでは、2010年度の秋学期からLMSのサービスを開始し、2011年度からポータルサイト、学習到達度自己評価システムの稼働を、2012年度からはeポートフォリオ、e学生台帳の稼働をめざして検討を進めている。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 学位授与基準としては卒業に必要な単位数を学部ごとに学則に定めており、それにもとづき学部教授会で学位授与を決定している。事務局から適正な成績、学籍上の判定資料を提供し、学部教授会で学位授与を決定しており、学位授与の手続きとしては適切である。今後、新たにそなえるべき能力としての学位授与基準が明示された際には、その基準が充足されていることをどのように評価するのかを明らかにしていく必要がある。
☆ その他	

### ◎効果が上がっている事項

#### 【点検・評価（1）】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

#### 【次年度に向けた方策（1）】伸ばさせるための方策

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.4.1	教育成果を測定する仕組みの整備。学習成果を測定する指標、システムなどの開発。学生が学習結果を自己評価できるシステムの開発。
★小項目6.4.2	学位授与基準が明示され、その基準が充足されていることをどのように評価するのかを明らかにする。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.4.1	検討の開始
★小項目6.4.2	検討の開始
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○「改善方策」が「検討の開始」というのは、やや漠然としすぎているのではないのでしょうか。検討主体の明確化など、一步踏み込んだ具体性が望まれます。

## 【学内委員】

○現状の説明は適切に行われていますが、学位授与の方針、また、それに基づく教育目標の明示がなされていない中での改善は限定的です。

○学位授与基準は卒業に必要な単位を揃えることを意味するものではありません。ディプロマ・ポリシーの明確化と共に教育の質保証を伴った適切性を担保する方策の策定を期待します。

○現状の成果はどのようなものでしょうか。

○高等教育推進センターの活動と成果に期待します。

○学位授与の手続きは適切に行なわれていますが、危機管理の側面からチェック体制の強化について考える余地はありませんか。

○異議申し立て制度についての説明をお願いします。

○学位授与基準は成績の厳格性が前提となります。

○学習管理システムの構築と成果測定システムの構築に向けて努力が行われることは多としますが、いかなる指標が基礎とされるかということを確認する必要があります。結局、そのことは教育目標を何によって表すかということに還元されるからです。

○改善方策は出来るだけ具体的であることが求められます。「検討の開始」だけでは曖昧です。より具体的な記述が望まれます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

異議申し立て制度について—成績の異議申し立ては成績発表後所定期間と様式を定め開講学部等で受付けている。卒業判定に対する異議申し立て制度は学部では設けていないが、成績発表時に学生は自己判定でき、その後の卒業発表と齟齬があれば卒業式までに照会することが可能である。

- ★◎改善すべき事項【次年度に向けた方策 (2)】小項目6.4.1、の記述を次のとおりとする。  
「GPAやTOEIC結果など教務部で把握可能な指標を提供することにより、高等教育推進センターが設計する学習成果測定の指標づくりを支援する。」  
小項目6.4.1、の記述を次のとおりとする。  
「会議を通し学内外の情報を提供し、各学部における学位授与基準の明示を進める。」

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

### <個別的な指標>
